立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替東京70852
電話(97)3121―9内線97
発行人　野口定男
毎月廿日発行

松下総長帰国す

首相特使の任を終えて

学生五百人が盛大な出迎え

核実験反対アッピール

英国のクリスマス島水爆実験中止を要望する日本国民の気持を訴えるため、首相特使として三月三十一日渡英した本学松下正寿総長は実夫人、道家理学部助教授、松宮氏らとともにヨーロツパ、アメリカを回り二十九日午前十時三十五分羽田着の日航機で帰国した。

この日空港は、岸首相代理の石田官房長官、灘尾文相、井出農相、稲田文部、井上外務各省次官、原水協理事長安井郁氏夫妻など、本学関係では佐々木前総長、菅文学部長、高脇学生部長、中川前理学部長をはじめ教職員多数が出迎え、学生会が用意したバス六台に分乗した約五百名の学生で、立教色に塗りつぶされた。午前十時三十五分、日航機〝シテイー・オブ・ナゴヤ〟が着陸するとまつ先に紺色のダブルの松下総長、続いて実夫人、道家助教授、松宮秘書が元気にタラツプを降りて来た。送迎デツキの上で本学等応援団ブラスバンドが一斉に校歌を吹奏し、E・S・S弁論部などの歓迎のノボリがはためいた。総長は帽子を振つてこれに応える。十時四十分、空港ロビー記者会見にあらわれ、「私個人の力の不足と客観的情勢の変化で英国政府をして実験中止を約束させえなかつたのは誠に遺憾で、国民各位に深くおわびする。しかし英米両国政府、国民に大きな影響を与えたことは事実である。今後、日本国民のこの訴えは、必ず全世界の同情と支援をよぶであろう」とのステートメントを発表、続いて記者団との一問一答に答えたのち、丸の内ホテルに落ちついた。

二階に学習参考書を陳列して御座います
芳林堂書店
池袋西口バス通り
TEL（97）四〇八〇・八〇二五

女子学生寮近く実現

米国聖公会の資金で

ニューヨークの聖公会婦人会幹事シヤーマン夫人らから立大女子学生の寄宿舎設備のため、一万九千五百ドル（約七百万円）の寄附金がありフイラデルフイアに於て総長夫人がそれを受取るわけであつたが多忙のため立寄れず送金する手配を確約した。

この女子寮は以前から地方の同系統の高校からの強い要望もあり八代理事長の熱心な努力によつて今週中にも委員会が開かれ、検討される予定。今のところ小学校南側の中学テニスコートが建設用地の最も有力な候補となつている。

右から道家助教授　松下総長、実夫人　松宮秘書の一行。（写真は日航提供）

医学部の設置

松下総長語る

法学部、医学部の新設問題について帰国した松下総長は次のように語つた。

法学部の内容としては、外交官の養成ということに重点をおくということも考えている。校舎などについては、いろいろと方法があると思うが、高校の移転よりも、正門前のグランドに新築した方がよいと思う。また医学部の設置問題も渡英前に理事会の承認を得て、設置の方針は決まつているが、未だ具体案作成の段階にはない。」

〝科学の政治化を憂う〟

総長帰国報告大会

安井氏の出席でもむ

さる二十九日帰国した松下総長の報告大会が六日午後十二時三十五分よりタツカー・ホールで盛大に行われた。映研製作による映画「総長帰る」が上映された後、主催者側の学生会々長の挨拶につづき学生部からその出席を云々された原水協理事長、法政大学法学部長の安井郁氏が総長の労をねぎらい激励のことばを述べた。つづいて満場の拍手に迎えられて登場した総長は、絶えず学生を笑わせながらも確信に満ちた態度で各国との科学的根拠の交換をせよ、科学の政治化は憂うべき現象だと強調したのち、最後に原水爆反対のリーダーシツプをとつた国こそ、そして原子力を平和利用に代えた国こそ世界の先頭に立つものであると結んだ。

つぎに随員として総長に同行した理学部の道家助教授は科学的データーを早く海外に配布することが現在日本の科学者の使命であるとのべた後、決議文が朗読され、〝原水爆許すまじ〟を全員で合唱して幕を閉じた。

学生会伊藤裕康君談

原水協の安井郁氏を招くにあたり学生部から云々されたが、原水爆反対を見通した時に残念なことだ。また今日の報告大会が学内の原水爆反対運動の一つの契機となつた。

論説

事務職員の態度について

年度が改まると、学校の事務所の窓口が繁忙になる。各学年ともに学生証の更改、通学定期券購入のための証明書、専門課程の学生にあつては、選択科目の履修届やゼミナール・講読の申込み、最高学年の学生は就職に備えて学生人事課へ調査カードの提出など、はては授業料の納入にいたるまで、とにかく窓口へと押しかける学生は列をなす。窓口も、六千人からの学生をさばくのは一仕事だろうが、これら諸事務を担当する職員の態度について、われわれ学生間にいろいろと批判の声が聞かれる。こうした声は、なにも今にはじまつたものではなく、決して爆発的に大きくはならないが、日常、散発的に不満や苦情という形をとつて、学生の間にくすぶつている。

二、三例をあげてみるとこうである。事務取扱いの終了時間の数分間前にかけつけた学生が、書類の下付を申請したところ事務執行はこれで終了したから、書類は翌日作成する、といわれたがその書類は残りの数分間で充分作成可能と思われるものだつたということである。これなどは、服務規定に反する明らかな怠業と云われても仕方あるまい。これほどハツキリしたケースならば解決も自ら容易なのであるが、もつと釈然としないもやもやした事態にこそ、問題があると云える。

図書館の閉館時刻は五時と定められてあるのに拘わらず、四時半ごろになると館員が閉館の準備にとりかかり、時間迄じつくり腰を落ちつけていることも出来ない、という学生がある。実のところ、身辺でバタバタと、あと片づけを始められたのでは、読書に身が入らぬのも無理もないことだ。その学生は「図書館に最後まで残つていると、いうことは度胸がいるよ。」ともらしていた。正式に退館の指示がなされないにしても、実質的には閉館時刻が繰り上つたようなものだ。書物は〝度胸〟で読まねばならぬものでもなし、たまたま、その学生が人一倍神経質であつただけ、といつてすまされることでもなかろう。

専門課程の教務課の窓口でゼミナールの参加申込用紙を失くした学生が再交付を申し出ると言下に「君は大事なものを失くした。ゼミ参加の資格はない。」とおどかされ、油を絞られた挙句にやつと申込用紙を手にすることが出来たという。不注意を責めるにしても、ゼミ参加の資格はない云々は、単なる事務職能の担当者が口にすべきことではなかろう。昨年度の初めに選択科目の履修届を出した学生が「こんなに採つて大丈夫か」といわれて、不快に思つたことがあるという。これなども職員の権限を越えた無用な口出しだ。学校の事務職員の大部分が本学のO・Bであるということだが、先輩が現役に対する温情のこもつた鞭として親身になつて学生に応待するのだ、というのであれば、これは全くナンセンスも甚しい。それは事務職員としての職分を逸脱しているからだ。O・B意識で日々の仕事を遂行し、現役教育を行つていては作業率は一体どうなるのか。職員と学生との関係は、あくまでもそれだけのものとして相互の紳士的な応待が望ましい。先輩と現役の関係という要素が混入すると、学生はまごつかざるを得ないし、それが両者の間にミゾを作つてしまうことになる。先輩・現役のつながりはあくまでプライヴエイトなものにしておかねばならない。どうも、O・B意識が事務職員の仕事の中に介入しているような傾向が感じられる。

また、就職のために毎年奔走してくれる学生人事課については、千人からの卒業生をこの時代に、何処かへ落ちつかせるということが並大抵の仕事でないとはいえ、一般に、親切だという声を聞かぬばかりか、「就職出来たからといつて人事課に手柄顔はしてもらいたくない。」と極言する声もある。特に、女子学生や健康に難点のある学生のなかには、頭から無理だと投げやりな言葉をかけられたものがいる。健康な男子でも職にありつくには、容易でない今日、そうした人々の可能性は少ないにしても、職員の不用意な言葉が如何に学生を暗い気持におとしいれることか。一般の職業安定所のサービスぶりも最近親切丁寧をきわめているときくにつけても、本学の人事課に対して一部の人々からこのような声を聞くとは残念なことだ。

以前、某大学でも事務職員と学生との摩擦が問題になつたことがある。こうしたことは、学生対学校当局というので、学生の方も妙な神経をつかつているために、抑圧された反感・不満という湿めつぽい現象となつて表われるこんなことで、明るい立教の学生々活がスポイルされたのではたまらない。

事務職員のマナーについて聞く不満の声は、決して全ての職員へ向けられたものではないことは事実であるが、また、一概に些細なこととして片づけられるものでないことも事実である。社会の官庁、企業を問わず、窓口での応待に、大いに意が配ばられている今日最高学府の中でこうした問題がくすぶつているのは恥ずかしい。

事務担当者はその職能にのみ専念してこそ、作業の合理性も高まり、またこれこそ学生の不満を解消するものであつて、実に学生の要望するところなのである。

学園

就職の條件

河西太一郎

就職の問題を考えるに当つて先づ第一に認識してかからなければならないことは、大学卒業後の諸君の生涯の運命が大体これによつて決定されることになるということである。この意味で就職問題を眼の前に控えている諸君は正に人生の一大事に当面しているといつても決して過言ではないであろう

一体人間は何のために生れてきたのか、人生の意義如何、と今、茲で開き直る積りはないが要するに各人はその個性を出来る限り伸張し発展させることによつて、共同生活、社会生活の進展に寄与すべく仂くところに生き甲斐を感ずべきものと思うのであるが、かような正しい意味における個性の発展は、勿論個人の努力を基礎とするが、同時に環境の影響が極めて重大な役割を演ずること明白であり、且つ社会人としての生活にとつて環境の中心となるのは即ちその人の就く職業に外ならないからである。諸君はかような観点に立つて始めから慎重な考慮と周到な用意とをもつて、就職問題に立ち向わねばならない。そして自分の素質と能力に適した、従つて自分が興味と熱意をもつて努力できるような、且つそこで自分の人生の充実発展をはかると共に、又その仕事を通じて社会の改善進歩に役立ち得るような職種及び職場の選定を第一目標とすべきである。

さてかようにして目標の選定が終ると次にはベストを盡してその目標の達成に邁進すべき順序となる。それについては学生人事部から出している小冊子「就職志望学生のために」の中に詳細に書いておいたからそれをよく読んでもらいたい。いづれにしても、就職試験の関門をパスしなければならないわけであり、それにパスするためには筆記試験においても、面接諮問においても、優良な成績を挙げなければならぬことは当然である。従つて学識、人物共に優秀であり、且つその人物がその業務に好適な人柄であること、これが即ち就職の最善の條件であることは云うまでもない。

しかしかような條件を百パーセントにそなえている者はそんなにいるわけではないから、次善、三善の者にも勿論チヤンスがないわけではない。現に本年度本学卒業生の就職率は三月二十八日現在で九七・二％（経済学部卒業生九九・三％）に達している。これは単に所謂「神武景気」の影響だけではない。本年度全国大学卒業生の平均就職率が三月末日現在五一％の低率に止まつているのに対し、本学がかような高率を挙げ得ているのは本学に対する社会的信用が比較的高い結果に外ならない。本学の社会的信用が高いと云うことは即ち本学卒業生が一般に誠実で信頼できるという定評を博しているからである。いかに学力が優秀であつても、その人物が信用できないような者であつては、雇い手はあるまい。人間が誠実で信用できる人物であること、これが就職の基礎的條件である。

就職のために必要なこの基礎條件から前述の最良條件に至る間にいろいろな段階があるわけであるが、就中例えば語学力が特に優秀であるとか、或は特技をもつているとか、又は見所のある、特色のある人物であることなどは、特にそれを要求する職場に対しては、極めて有利な就職條件となるであろう。（筆者＝かわにし・たいちろう　本学経済学部長）

高校校舎を大学が接収か

法学部新設問題を契機に

法学部新設が本決りとなりその校舎が正門前運動場に新築されることに決定したが（一三九号既報）、これに関連して立教高校移転の問題が表面化してきた。高校が現在の校舎を移転することになれば、その後に大学の一般教育課程の学生が入ることも考えられており、現在大学側、高校側でそれぞれ慎重に話し合いが進んでいる。

高校移転の問題は池袋の環境、生徒の増加、大学の発展等の見地から高校当局としても以前から考えられていたことである。たまたま、二年先に法学部の設置が決定されて、この問題の解決が早急に要望されるにいたつたのだが、移転地として三万坪以上の敷地と、交通の便の良いところが高校側から望まれている。候補地として現在グリーン・ハイツと埼玉県川越市が考えられており、グリーン・ハイツは交通の便も悪くはないが都指定の緑地帯である関係上、鉄筋コンクリートの建造物は禁止されていて、校舎は木造モルタル造りということになる。一方埼玉の敷地は十三万坪ほどあり、地元ではこの地を文教地区とすることを希望、立教学院の移転を大歓迎しているが、高校移転と一緒に大学当局では法学部以外の新学部（医学部か社会学部）もゆくゆくはここに設置したいと考えているようだ。

現在のところ、この二つの候補地のどちらを取るか、また新たに土地を求めるかは決定していないが、いずれにしてもこの二、三年の間に高校が現在の地を離れることはほぼ確定している。高校が埼玉でなく、都内に移転することになれば中学もいつしよに移り、池袋一劃を大学が専有することとなる

社会学科　第一次調査終る

更にユネスコから調査依頼

生産性問題

本学社会学科ではかねてより通産省生産性本部より「生産性と労使関係に関する研究」を依頼されていたが、このほど第一次調査が終り五月中旬までに同本部へ報告するためのレポート作成中である。

第一次調査は、工場を対象にしたA班の「生産性向上についての従業員の知識、理解および態度」一般大衆および学生を対象としたB班では、消費者の立場としての一般市民の生産性向上に対する理解度について行つた。

A班では化学工業関係の工場を対象に全国二十五、六の工場、四千五、六百名の従業員に予備調査を行い、そのうちより一般的に使用できるものを検討、選択し、十工場を抽出、本調査を行い、B班では予備調査として高崎、名古屋東京を区域別に調査、そのうち東京都を本調査の対象に選び、これを二十三区に分け、地域的サンプル（標本抽出法）をもつて二四〇〇世帯を抽出、職業構成と人口分布を基準として類似した区域からサンプルをとり、地点として八〇地点を抽出、等間隔七〇〇世帯に面接を行い、生活意識調査、広い意味の一般消費者の生産性向上に対する態度、一言にしていえば、生産性向上ということを知つているか否かを確め、知つているとすればどういう形で知られているかまたそれの生活への関連等を調査した。

現在両班ともに資料の集計を終り結論を急いでいるので本部への報告も間もない。

なお本調査の中間報告第一報が通産省生産性本部の本学に対する関心を高め、本年度ユネスコ本部主催でヨーロツパ生産性本部、日本メキシコ、インド、スイス、フランスの世界六テイームを対象としてなされる「生産性に影響を与える社会的文化的要因に対する国際的調査計画」の予算二五〇〇ドル（約九〇万円）で依頼された日本調査を、従来より生産性問題を扱つており成果をあげている本学社会学科、心理学科に委託してきたた本学はこれを快諾、続行の態度、組織の作成、方針などの検討に着手第一次調査が完了次第第二次準備委員会を九月から十一月に結成する模様で、調査形式は第一次とほぼ同じであるが、一次の調査が工場内のみを対象としていたのに反し、範囲を拡大し、地域社会環境における個人の影響などを対象とする。

本学で英文学会開く

全国の英文科を有する大学の関係者が多数集まる日本英文学会が五月二十五日（土）・二十六日（日）の両日本学で行われる。第一日の土曜日は午後一時よりタツカー・ホールで開会式が行われ、その後四室に別れて、英文学、米文学、英語学等に関する研究発表及びフリース博士の講演、夜は日本英文学会評議員を招待し松下総長、菅文学部長も出席して懇談会が開かれる。日曜日は午前中研究発表、午後から前東大教授斉藤勇博士、中山竹二郎九大文学部長、神戸女学院ジエリフ教授らの英米文学に関する特別講演、午後は再び研究発表があり、最後に本学英米文学科長杉木教授の一ケ年の英米文学関係業績報告で閉会する。土、日の二日間にわたるこのシンポジウムには、本学から細入教授が司会者として参加するほかに、秋山教授村岡、酒向助教授、福田講師の研究発表が行われることになつている。

石炭・コークス
資本金　拾貳億圓
三井鑛山株式會社
社長　栗木幹
本社　東京都中央区日本橋室町二の一の一

波紋

薫風薫る五月―何もが美しくみえる季節だ。スポーツが各地で熱戦を繰りひろげるのもまた、この季節だ。老若男女がある一定のルールに従つて、自分のもつ技量を最高度に発揮する。その結果が数字ではつきりと表われる。これがスポーツのもつ魅力でもあるのだろう▼世はまさにサイクリング時代、これもスポーツの一つに違いない。歌をうたい、軽々とペタルを踏んで、野に山に走りまわるお嬢さんの姿は美しい▼我校のスポーツが盛んなことは、体育会に属する運動部が数十あることをみてもうなづける。しかしこの中に、女子の運動部が一つも含まれていないのは、何かさびしい気がする。こう思うのは私だけではあるまい。W大、K大にはちゃんとある。女子学生がいる以上、彼女らの運動部があつて当然である▼これに刺戟されてか最近、同好者が集つて、バスケット、テニス、バトミントンの各部が誕生した。といつても体育会に属しているわけではない。スポーツが好きな人たちが集つた同好会に過ぎない。▼「今のところどこからも援助してくれる所がないので、私達で全てをまかなつていかねばならないので四苦八苦です。でもスポーツをして楽しみたい、という気持がこの部を支えているのでしよう」何事においても側面からの協力援助なくしては立派に成長するものではない。だから、これら三つの女子運動部も何時ローソクの灯のように消えてしまうかわからない女子が運動をしたい、という気持は同じ人間である以上すこしも変らないはずだ▼「女はお淑やかでさえあればいい」という考えは現代においては通じまい。折角できた部だ。部である以上他の大学との対抗試合をさせたいのも人の常だ。これにはバツクが必要だ。支柱が必要なのである。見て見ない振りをしないで立派に育て上げたいものだ▼大海の小島に忘れ去られてしまわないように学校当局に限らず、体育会もこれら女子運動部を育てて行く気はないものか。

イタリヤ留学生募集

このたびイタリア政府では昨年度に引続き今年度も我国の留学生三名に対し奨学金を交給する旨駐日イタリア大使を通じて申しこんできた。この三名の留学生には給費期間一ケ年、月額五〇、〇〇〇リラー（邦貨二八、五〇〇円）が支給される。また留学中①国立大学および他の国立学校に入学する時は別に授業料が支給される。申込みは庶務課で受付ける。

みのりフイルム
写真用品
8m/mシネ用品
株式会社　六和

動き

むらさき会　五月三十一日、六月一日大和証券ホールで三島由紀夫作「鹿鳴館」を上演する。

英語会（ESS）　毎日新聞社主催全日本学生英語弁論大会立教代表選出を兼ねたスピーチ・コンテストが六月一日一時より三十五番教室で行われる。

グリー・クラブ　六月一日、二日六大学合同演奏会を日本青年会館で、六月十二日合唱祭を本学タツカーホールで、また六月二十八日同志社との交歓会を京都で行う。

スポーツ用具一般
フミヤ
TEL (97) 3095

コーヒーショップ
ミネルヴァ
西武デパート前
TEL (97) 3065

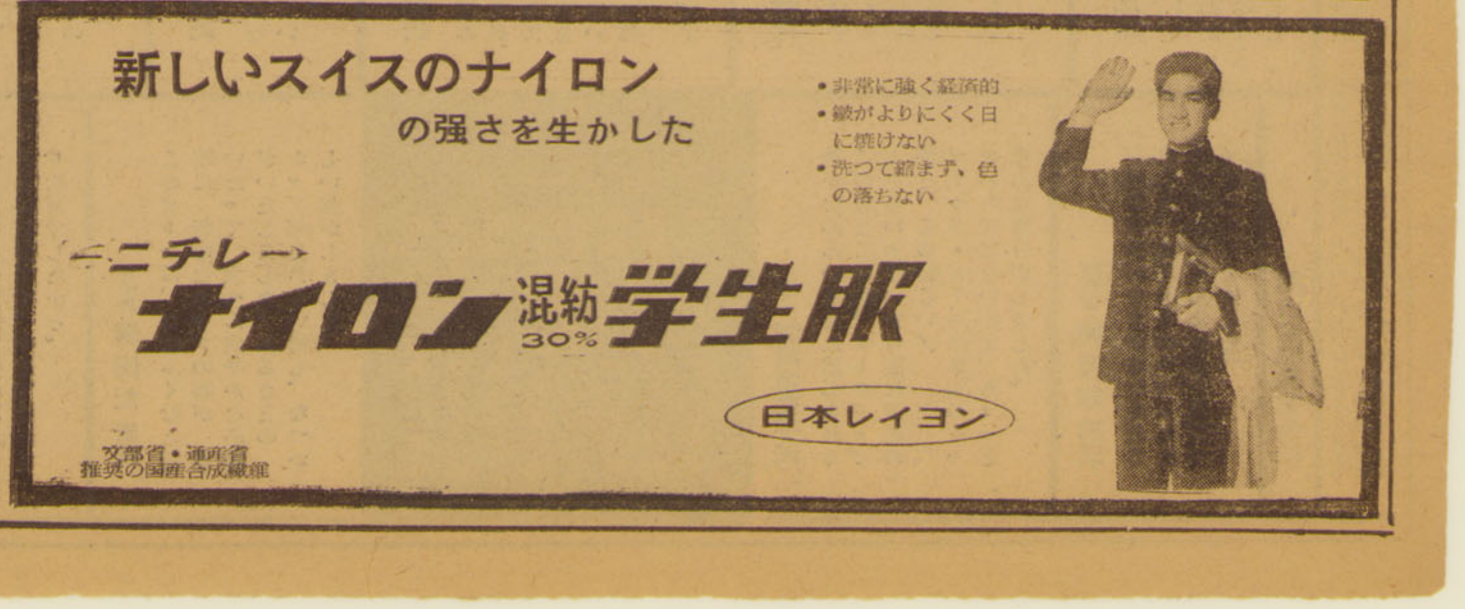
MARUZEN
アテナインキ
美しく書けた字は
水にも散らず
次第に黒くなつて
永久に消えない
30円・50円　全国有名文具店にあり

東京証券業協会々員
東京証券取引所正会員
室清證券株式会社
取締役社長　室政太郎
東京都中央区日本橋兜町1の8（日証館）
TEL兜町（67）1451～7

立教大学新聞学会御推薦
美術・実用謄写印刷
豊島区目白町1の1174
目白駅坂下(97)1548
高千帆孔版社

乗って下さる方の気持になって作られた名車ノートン号
ROYAL Norton
クラウン　¥39,500
（cr―mo・ダブルバテツト管 外装八段・26×1⅜ホイール付）
デラツクス　¥28,000
（三段変速・ランプ・バツク サポーター・ポンプ付）
ローヤル ノートン号
新聞名記入お申込みの方にカタログ進呈
ノートン自転車株式会社　東京千代田区神田栄町13　TEL (83) 5688・8239

丸三製紙株式会社
社長　神山真
東京都足立区梅原町
福島県相馬市中村（相馬丸三製紙株式会社）



新しいスイスのナイロン
の強さを生かした
・非常に強く経済的
・皺がよりにくく日に焼けない
・洗つて縮まず、色の落ちない
ニチレー
ナイロン混紡30%学生服
日本レイヨン
文部省・通産省推奨の国産合成繊維

世界に核実験反対を訴えて

全国民の悲願をになう原水爆実験禁止をマクミラン英首相に訴えるために渡英した本学松下総長は、二十九日ヨーロッパ、米国を回り一ケ月ぶりに帰国した。首相特使としての目的であるクリスマス島の原水爆実験中止の要請はついに達せられなかつたがこのたびの壮挙は今後の核実験問題に大きな影響を及ぼすことは疑いのないところだろう。世界的世論を喚起したという点に関しては総長自身がのべているごとく、英、米の両国政府並びに、国民に大きな影響を与え、さらに日本国民の世界平和への熱意を強調したことからも、特使としての大任を果したといえよう。本紙はここに重ねて核爆発実験禁止の問題を再考し、総長並びに随行した道家本学助教授、毎日新聞社論説委員藤田信勝氏の三氏の率直な意見を聞いてみた。

松下総長と一問一答

日本の科学的資料は少ない

抗議船団の効果は疑問

―岸首相は宗教界の代表者ということで八代主教から総長へと今回のミツシヨンを依頼したようですが向うの宗教界の反響は如何でしたか。

総長 英国のキリスト教協議会は、英国政府の核実験に対しては、やむをえないという態度をとつていたんだが、四月四日の総会では、英国政府のクリスマス島での実験は遺憾であるとの決議を賛成三九、反対三一、棄権五で可決した。これは私が行つたからか、あるいは偶然そういうことになつたのか、わからない。

―日本政府が実験登録制を、総長の渡英中にいいはじめたが…

総長 私が受け取つた公報では、国連の軍縮委員会にコメントを提出した。これは実験を採知できるか否かをだして、もし探知できないというのであれば、実験登録制をするというもので、これを私はマクミラン英首相に提案した。理想としては、核兵器の全廃が望ましいし、これが日本国民の気持なんだが、現実にはそうはいかない。そこで害を最少限にくい止めるということで、登録制を私もいつたのだ。

―首相特使として個人的意見だけで日本政府の見解というものは打ち出されてはいなかつたようですが

総長 個人的意見として私はいたるところで、見解を述べた。それは、私自身が政府の見解というものも知らないからだ。

―アメリカなどへまわるという予定は…

総長 これは出発前に考えていたことで、ただアメリカでは民間人に会おうと思つていた。要人に会うことは考えていなかつたが、向うへ行つてから考えが変わつて政府要人に会つたわけだ。ダレス長官は、非常に真面目だという印象を受けた。

―道家助教授が携行した科学資料についての反響は……。

総長 日本での資料は少ないという感じだ。米英の資料は分量からいつてもぼう大なもので、日本の研究が不足していると思う。アメリカの原子力委員のリビーは、核実験を行つても大体害は無いという結論だつた。これに対してアメリカ国内の学者の中には異論のあるものも少なくないことは確かだ。またリビーにしても絶対に害がないとはいつていないただきわめてその害は少ないものであるということだつた。

―向うの学生層は如何でした

総長 ロンドンで国際連合学生委員会（United Nations of Student Association）から実験に絶対反対であるという決議文というか、激励文みたいなものを託された。七、八人の代表に会つたが、黒人の学生などもいた。

―抗議船団を原水協から派遣することになつたんですか……。

総長 命がけで座り込むのには絶対反対だが、今度のはそうではなくて実験海域を回してデモンストレーションをしようというもののようだ。これには反対ではないが、私としては無意味だと思う。しかしあるいは効果があるかも知れない。やつてみなければわからないことだ。

―ソ連の 無警告 実験については……。

総長 ソ連の場合はもつと悪質だと思う。

―ロイド英外相がこの間、日本の実験反対は、共産党の扇動だというようなことを云つていますが……。

総長 ロイドは非常に不勉強な男だと思う。もつと事情をよく調べるべきだ。共産党が実験禁止運動に加わつていてもよい。この問題は政治的意見とは別のものだ。この点についてはマクミランとも充分に話し合つてわかつてくれた。それについて、タイムスの記者が私にコメントを求めて来たから、私は口をきわめて、ロイドを攻撃しておいた。

―ピオ十二世との会見は…。

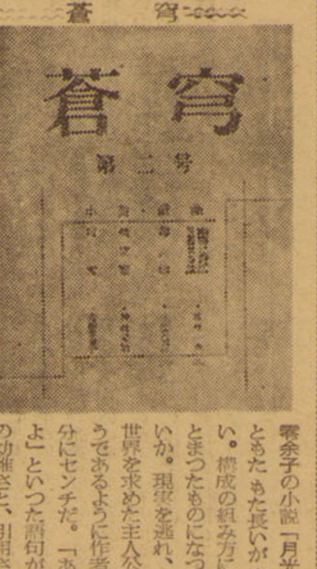
ローマ法皇は、ずつと原水爆には反対という態度をもつてきているし、彼の意見をまとめたものをもらつたが、これはすでに岸首相に手渡した。

―ジャーナリズムの反響は…。なにか、あまり大きく扱われなかつたと聞きますが。

総長 それは程度の問題で、トツプ見出しではなかつたが必ず私の動向は載せていた。英国の自由党は少数政党なのだが、その副首相と甚だ率直に話をした。彼は非常に気の毒がつてくれた。英国の新聞がこんなに大きく扱つたことはないといつていた。外国の特使といつた種類のものでは、かつてない扱い方だと云つていた。新聞の論調が変つて来たことは事実だと思う。無視されたということは事実に反する。

同人誌紹介 ①

蒼穹



最近学内では同人の誌発刊が盛んである。本紙はその一つ一つを紹介風に取り上げて行くことにした。

今回は創刊号に引続き第二号の誕生をみた「蒼穹」を紹介する。小説二篇、戯曲一篇を含み、四人の同人がそれぞれ一篇を書いている。小説では神村元治の「真空管」が特異な主題で注目される。十三才の少年が、釣をしていた自分の友人が目の前で川に落ち込む（自殺、過失少年の故意かは説明がない）のを見て、肉感的な喜びを感じる。というもので、割り合に豊富なイメージを起させるが、多少うるさいと思わせるような文章でもある。珍らしい主題の選定が文章の欠陥を補つて読ませるといつては言い過ぎか。斎藤零余子の小説「月光」はやたらともた長いが内容は少ない。構成の組み方によつてはまとまつたものになつたのではないか。現実を逃れ、神秘な詩の世界を求めた主人公の青年がそうであるように作者もまた、過分にセンチだ。「ああ、……よ」といつた語句が散見し文章の幼稚さと、引用された卑猥な唄とあいまつて、いかにもあつけない作品になつた。

戯曲では未完の「悲倫」（久保木敬三）が筆力を揮つているが、舞台での戯曲として消化出来るか大いに疑問である。また読者を一気に引付けるところがないのも残念である。次号に期待する。もう一篇の戯曲「幽霊に背広を着せる話」（荒井一夫）は前半三分の二がつまらないが、あとはかなり面白く出来ている。山中温泉へ投宿中の大学生が死んだ旧友に再会し、背広を着せるという簡単な話だがあつさりとして受けとり易い。多分にスリラー的な味を意図したようだが、その意味では成功したとは云い難い。スリラー的要素を取つてしまつたら果して何が残るかということも作者は考えなくてはならないのではないか。とにかく「皆独自の道を求めて岩の壁にノミを打つている」とのこと、今後に期待は大きい。（赤倉）

次号は六月発行の予定。48ページガリ版ずり。現在会員募集中で、連絡先は厚木市下荻野一二七八斎藤零余子方蒼穹文学会。現在会員は四名で皆三年英文科。

不充分な基礎的研究

一般国民への影響も大

理学部助教授　道家　忠義

実験継続による弊害の大小が論議の焦点

このたび松下特使の随員として英米諸国に行つて二三感じた所を述べてみたい。松下特使も云われている様に英国及び米国に於ては原水爆実験反対に対する科学的根拠が非常に問題となつていると云う事である。その理由は次の様な所にある。即ち原水爆戦が起つた時の如何に悲惨な状態となるかは誰もが承知しているのであるが、今もし実験を中止すればかえつてソ連の侵略をまねき平和を保つためにこそ原水爆実験による示威運動が必要である故、若しも実験による弊害が少なければ、その継続は人道的にも認めるべきだというのである。故に実験継続による弊害が小ないか否かが論議の焦点となるのである。従つてヒユーマニステイツクな立場のみの反対は単なる感情としてしか彼等の目に映らず更に今一度戦が起つたときの惨状を訴えて禁止をさけんだ所で非現実的議論としてしか受け付けないのである。

科学的根拠による問題点の明示が重要

この様な理由の正当性の問題は別にゆずるとして、かかる立場から彼等が原水爆実験による弊害と云う点に相当神経を費していることは事実で、米国のダレスさんも若し人間に対する弊害が確かに起るものであれば考えを変えるにやぶさかでないと云つているのである。勿論現在では何等危険はない事を信じている人々が圧倒的に多いという事は事実である。その理由は英米の権威ある学会でまとめた報告書をそのまま信頼しきつている所にある。最近の米国のW・F・リビーの極端な無害論は別としても、今述べた様な権威ある報告書を上層の議員、知識人はよく読んで居り、必ずと云つてよい程この原水爆問題に関してはその報告書を引用し危険のない事を強調するのである。又一方実験に反対の人々は逆にこれ等の報告書の欠点を指摘すると共に、更に積極的に弊害を示す資料や計算結果を強調するのである。後者は政府関係からの資料が余り配布されないので日本からの下らないと思われる程の資料も貴重なものとしている。この様な雰囲気の中では少なくとも表面上は全てがこの方面の科学的資料、推定等にかかつて居り、この方面で決定的なものが出れば全てがそれにより解決している模様にさえ思われるのである。かく科学的根拠が非常に問題である事は事実としても、本当はそれのみでなく更に政治的な各種の原因によつて現実には全てが動いているのである。併しこの問題に関して科学的根拠が或る程度明示されない限り、実験反対運動としてみなされ軽蔑的に見られるのみであろう。そこで私はこの運動にたずさわつている知識階級の人々に、この方面の基礎知識及び、現在の所どの程度の事が云い得るかと云う事をよく理解して戴きたいと思う。

以上のような点からいつて科学的根拠を主張すべきであるが、この場合相当慎重にしなければいけない。例えば遺伝的の面で余り害を強調しすぎると、医学用に使用されているX線により一般人が受ける放射線量の方が、原水爆実験によつて受ける線量より遥かに多く、それを問題にする位なら一般に使用されているX線の方を問題とすべきだというように反撃されてしまうのである。常にこのような相手の反撃を考慮しつつ原水爆実験による弊害を推定して行かねばならないのである。

自由な討論の場を作ること

このような点で私が持つて行つた資料は二三の欠点はあるにしてもよく相手側の弱点を衝いていたと思う。唯この原水爆実験の弊害を主張するとき色々の指定を行うので、あるがそれがどの程度の精度を持つかが問題となろう。このような点で世界の科学者がよく意見を交換し論議をしなければならない。このような点で国連の放射線影響科学委員会は一つの場を提供するものであるが、私の見た所では相当政治色が濃厚である。併しインド、スウエーデン、フランス等の小国が相当活発に動いているらしく、そのため比較的正しい方面に全体がむいていると思われる。例えば日本代表の都築氏は四月のジユネーブ会議出発前、この委員会は単に資料を整理するのみであるといわれていたのであるが特使がジユネーヴに行つてその委員長から聞いた所によれば資料を整理するのみでなく、それに危険度に対する解釈を加え国連本部にリコメンデイシヨンを出すようになるだろうということである。これは小国の発言によつて大国も同調せざるを得なくなつた一つのよい例である。我々はこのような委員会を重要視することは勿論であるが先に述べたように政治色が濃厚な点でラツセルやパウエル等の提案しているような民間科学者の政府機会を通さぬ自由な討論の場を作ることも必要なことであろうまた日本に於てももつとこの方面の科学的議論が必要と思われる。また特にこの方面の真面目な研究者のいない日本に於ては基礎的な研究が少なく、一般の人々が思つている程世界的地位にないことを自覚する必要がある。更に私の恐れるのは新聞紙上に於ける極端な表現をうのみにしてそう思い込んでしまうことである。このような種々の欠点を補うべく、今後共努力するとともにその一つの解決策として、一般人にも容易にわかるこの方面の解説書を広く配布し、一般人がいいかげんな科学者の発言や新聞記事を批判する所まで行かなくとも、疑念をいだく程度にはなつていただきたく思うものである。

一般随想

カメラの横暴

曽野　綾子

カルチエ・ブレツソンの「決定的瞬間」というものは、すばらしく迫力があつて、本当に我々も、決定的というその瞬間に魅せられるしかしそれにつけても思うのは、カメラ好きの日本人が、勝手に他人の決定的瞬間?を狙つて写真をとり、それを「私のカメラ・ルポ」などという欄に発表したりする無礼さである。

決定的瞬間を、人間的な意味で本当に捕え得る人は少ない。決定的とみなされているものの大半は、地下鉄から吹き上げる風でマリリン・モンローのスカートがひるがえつた、のと同じ種類の覗き見趣味を満足させるものにすぎない。

この頃のカメラの横暴は、ひどい。玄人、素人ともに、ニユース映画で鼻毛を見せてギジ堂の廊下で眠つているところをとられる議員さんも、銀座を歩いていても望遠レンズで、いつうつされないとも限らない我々も、大変迷惑だ。これは明らかに人権ジユウリンであるし、この問題はきつと今後ますますひどくなると思う。（筆者＝その・あやこ、作家）

問題点を明確にした特使派遣

ヒューマニズムの立場だけでは弱い

毎日新聞社論説委員　藤　田　信　勝

立教大学総長松下博士が、岸首相の特使としてイギリスに派遣されたのは、もちろんクリスマス島の水爆実験をやめさせるためだつた。日本政府は、一月三十一日以来、イギリス政府に対して三回水爆実験の中止を要請し、英政府から拒否された。そして今度は宗教界の代表を首相特使として派遣したいと岸首相が国会で言明した。そして松下総長が特使として選ばれた。

多くの人は松下特使が行つても、イギリス政府の態度を変えさせることはできないだろうと見た。松下氏が渡英前にいろいろな人を招いて参考意見をきいた時に「あなたはこんな役を引き受けるべきではなかつた。あなたは岸首相の政治的ジエスチユアに使われるだけで使命は失敗ですよ」と率直にいつた消息通があつたそうだ。今度の特使派遣にどれだけ国内的、対外的な政治的ジエスチユアがあつたか、私は知らない。そして松下博士は、クリスマス島の水爆実験をやめさせることができなかつた。では松下博士の英米訪問は失敗だつたろうか。

私は松下特使の英米訪問は失敗どころか、たいへんな（予想以上の）成功だと考えている。英国人流にいうなら、松下特使一行を迎えて「ウエル・ダン！」といいたいぐらいの気持である。もちろん、松下博士はイギリス政府の態度を変えさせることができなかつたばかりか、イギリスの世論さえ、そんなに変化したとは思えない。松下博士の渡英前から、マンチエスター・ガーデイアンやニユーズ・クロニクルのようなリベラルな新聞は実験反対だつたし、労働党も反対だつた。ザ・タイムスも二月の社説では「日本人は米ソに先ず抗議すべきだ」と、イギリスだけに抗議を向けるのがわからないというような態度だつたが、三月七日の社説では「日本の抗議は正当である」といつて理解ある態度に変つて来ていた。これは松下博士の渡米前のことで、その後世論が大きく変つた証拠はない。

松下博士の英米訪問によつて得られた一番大きな収穫は、むしろ問題点が明らかになつたということである。これは今後私たちが、水爆実験反対の運動をつづける上に考えねばならぬことでただ単なるヒユーマニズムの立場だけでは弱いということである。

松下博士が英米訪問の結論としてすでに明らかにしている問題点は次の二点に要約されよう。

（一）米英両国に核実験禁止を説得するには政治的にも、科学的にも困難な点が多い。

（二）核実験に伴う放射能害について、大きな科学的見解のちがいがあるので英米の科学的論拠を反論しうるだけの資料をつくらねばならない。

まず（一）の政治的困難というのは、第一に英米両国の首脳が核兵器による〝恐怖の均衡〟が結局、今日の世界の平和を維持しているという考えであろう。この点ではソ連首脳も同様の考えだということができる。第二には、核兵器が一方では普通の戦術兵器のなかにどんどん入つて来て、核兵器と通常兵器という従来の分け方が意味のないものになりつつあること。他方弾道兵器（ミサイル）の時代になりICBM.（大陸間誘導弾）の完成が両陣営の猛烈な競争になつていることである。第三に、原子力部隊化には非常に金がかかるが、強力な軍備という意味で至上命令である一方、これを維持するためにはかえつて安上りの軍備となる。このことは最近のイギリスの国 防白 書が、全面的に〝原子力化〟をうたい、五七―五八年度軍事予算一億ポンド（一千億円）以上節約するといつていることによつても明らかである。つまり軍備をもつ限り原子力化は必然だし、いまのところ軍備こそ平和のとりでだと世界の政治家が考え、しかもそのような考えの上に相手に対する「不信」が重つている、というのが政治的困難ということであろう。

科学的困難は放射能害の問題でイギリス政府はクリスマス島の実験が人類に危険なほどの放射能害をもたらさないという科学的論拠をもつているし、アメリカ政府も原子力委員のリビー博士などの見解を実験継続の根拠としている。これに対して松下特使一行の道家氏がどれだけ相手を説得したかは、まだ詳しくわからない。だが、アメリカからの報道によると、ニユーヨーク・タイムズの有名な科学記者ローレンス氏（〝零の発見〟の著者）は、国連放射能科学委員会委員長ベツク博士の名を松下特使があげたところ「彼に何の資格があつてそんなことがいえるのか」と反論して、リビー博士の立論を述べたてたということである。ローレンス氏は科学者ではないが科学精神をもつた立派なジヤーナリストとして定評のある人であるが科学の問題も国の利害という背景の前に立たされると純粋に扱えないという印象を、この報道から私は受けた。おそらくこれが科学的困難ということの意味なのだろう。

また四月にジユネーブで開かれた国連の放射能影響調査科学委第三回会議で、ソ連代表が発表したストロンチユウム90の地表蓄積量は一九五四年―一六年の資料で一〇・四ミリ・キユーリー（同会議に出された日本の資料は一九五七年初めまで六・二三ミリ・キユーリー）だというが、このような数字に対して、もし三国の実験禁止協定ができない場合、核実験をつづけるという ソ連政府の態度を科学者として支持できるのかどうかそれをききたいところだが、そういう政治的発言はこの会議では行われていないからやむを得ない。

要するに問題はこうだと思う。（一）核実験をつづける米英ソの三国首脳は、核兵器による〝恐怖の恐慌〟が、少くとも現在のところ世界の平和維持に役立つという前提に立つている。（二）核実験による放射能害（ストロンチユウム90、セシウム―137など）を否定はしないがその影響は現在のところ、遺伝的影響をふくめて極めて少いと考えている。（三）たとえ多少のわるい影響もあつて国際間の勢力均衡とバランスをとつた場合、後者の方を重く考えるべきだ。これが米英ソ大国首脳の考え方であろう。これを打ち破ることが、核実験をやめさせる一つの道であり、特に日本の科学者の使命は重大だと考える。

松下博士は、このような問題点について、少なくとも日本のもつ資料を示し、ヒユーマニズムの立場から英米各方面の人々に説き、そして科学的資料の充実と世界世論のもり上げで、さらに説得力を増すことができると考えているようである。また公海使用に関して国際裁判所の問題にすることについても、ハーグで打診を行つて来ているから、この問題はあるいは進展するかもしれない。

結局、問題を進めるためには、まずきびしい現実分析から始めねばならぬ。確実な診断は治療の第一歩だという意味で、松下博士の英米訪問はムダではなかつた。

春季身体検査の日程

今年度春季身体検査の日程が次の通り決定した。

一年　六月三日―六日

二年　五月二十日―二十四日

三、四年、大学院　五月二十七日―三十日

検査日は、一、二年には各教室に掲示、三、四年、大学院には学生部の前に掲示するので注意すること。なお診療所では毎年、三年の受検成績が悪いので各自注意して欲しいと要望している。

診療所を新築

診療所として長く使われていた校友会々館を本来の同窓会々館として使いたいという同窓会側のかねてからの希望と、それに診療所自体狭ますぎるという理由からこの度診療所が移転新築されることになつた。

新しい診療所の建設用地としては正門前のウイリアムス館をとりこわした跡が考えられている。

ダンス教授
初心者専門速成教授
学生さん大歓迎
新大久保駅前交番横入ル
国電神田駅前三菱銀行裏
国電新橋駅烏森口正面二階
各一分
三所共通 (36)1374
巴里院ダンス教授所

COFFEE : WINE
マルタ
西口[illegible] (99) 6270

新宿一の喫茶
音楽の殿堂
純喫茶
マイアミ
新宿区角筈一ノ一　ムサシノ通リ
TEL (37) 九五七〇・四九八二

アサヒゴールドに
頂いた たくさんの
ご批評のなかから…
（順不同）

学習院大教授　清水幾太郎氏
お世辞でなく、本当に立派なビールだと思いました。外国のビールをいくらか飲みましたが、これにまさるものはないように思います。

芸大教授　颯田琴次氏
確かにビールの王者です。美味芳香、微細な泡沫音……等々。本場のドイツでも、決してザラにお目にかかれるものではありません。

東京教育大名誉教授　福原麟太郎氏
今夕、友人四人に味わって見ていただきました。その御意見を次に列記致します。友達としみじみ話しながら飲むのによいビールです。
1 始めて飲んだ時は軽くて口当りがよい。　広瀬泰三氏
2 口あたりまろやか。しかし底力があるようだ。　芹沢栄氏
3 イギリスのエイルの味、ビター に近い味。　桜庭信之氏
4 野外のラッパ飲みの連想でなく、サロンで静かに味わいたい気分がする。　新井通之氏

都立大教授　戒能通孝氏
正直にいうと困ったことになったと思います。何しろひどくうまいのです。先頃ヨーロッパ旅行の際、デンマークのビールもドイツのビールも少し味わいましたが、今度のビールはそれより遥かによいものでした。おかげで今度からビール代を工面しなければならなくなりそうになりました。今までのところ私はせいぜい煙草に多少の要求をもつだけでしたので、何とか小遣いのやりくりをつけておりました。今後は煙草のほかビールまで。一寸ゾッとするほどです。

東大名誉教授　相良守峯氏
ゴールド・ラベルの意匠と名称に恥じず、コクがあり、風味に富んでいると思います。コクのあるのを好む日本人の気に入るでしょう。

東京工大教授　宮城音彌氏
すばらしい味です。私と家内は大体 生ビールを好んでいますが、このビールなら、なまを飲みに出かける必要がなさそうです。これは、本場のドイツとならんで、まさに、世界的なものといえましょう。

早大教授　山内義雄氏
初夏の日を思わせる色のよさ、その味の軽やかさ、とかく これまでのビールにつきものの、胃にもたれる重い感じがなく、しかもコクのある 醸造ぶりに敬服しました。

日大講師　瀬沼茂樹氏
おいしいビールでした。コハク色のかがやきは、美しい女の肌のようですし、やわらかな味のなかに、厚味があって、気持のよい後味が残ります。こんなに、一杯のビールをたのしんだことはありません。

東大・女子大講師　魚返善雄氏
これまでの各社製品のようなまぐささや荒っぽさが取れていて、好ましいと思いました。

国大教授　金田一京助氏
私はビールは一本を二日で飲み二日ともに陶然となるのですがどういうものか、いい心もちでこんどのビールは一度に一本を七八分目まで飲んで寝てしまいましたところを見ても、よっぽどどうかしてるんですね。うまい！ということは確かです。

作家　志賀直哉氏
酒を評する資格のないものですが、このビールと在来のビールとを飲みくらべ、今度のものの方が何となくフレッシュな感じがあると思いました。つまり、いきいきした味があります。

作家　阿部知二氏
じつは戦争以来の日本のビールには、何か不満を感じるものがありましたが、これでようやく安心できたという気がしました

評論家　浦松佐美太郎氏
今までに何度もビールの醸造法を変えたということを聞きましたが、こんどほどハッキリとその変ったことが判ったことはありません。しかも素晴しい変り方です。ひと口飲んだときにその味と香りの素晴しさが判りました。へんな言い方ですがこれなら本場のドイツビール以上だといっていいでしょう。

評論家　神崎清氏
○主人　著述業　52才　流動体の民芸品という感じ。味覚芸術の傑作だと思いました。
○主婦　区教育委員　50才　高貴な味。これならビール党になれそうです。
○長男　出版社勤務　23才　青年の新しいエネルギー源になる。
○長女　映画会社勤務　24才　香り、味、切れ味、コクのよさと四拍子揃っている中で、とくにコクのある美味しさに驚きました。

独文学者　高橋健二氏
ドイツからの新来の客の到着を待って飲みました。ドイツビールの酔いもまださめやらぬドイツ青年、朝日ビールを飲んで、これはドイツビールより舌ざわりがやわらかい、と思い入れたっぷりでした。小生も同感、舌ざわりよく、悪酔いせぬように感じました。

評論家　土屋清氏
ちょっとミュンヘン、ウインで飲んだビールの味を思い出します。ビールの種類と味のふえることは結構です。今まではあまり均質でしたから。

随筆家　森田たま氏
このビールは、口にふくむと同時に 新鮮なホップの香が 匂いたって、大へん爽やかな心地がいたしました。ふるさとのホップ畑をおもい出し、なつかしい気がしました。

詩人　深尾須磨子氏
豊かなふんいきさえ感じられるこの色とこの味。ゴールド・ビールのいっぱいから生れるこの夢と、このいこい！ゴールド・ビールは日本のシャンパンではないかと、ちょっとそんな気分がしました。

版画家　棟方志功氏
高邁な味わいをきかせいただきました。舌ざわりのカットしたうるみの判然した歓喜を湧然つくしいただきました。

欧州から 醸造界の最高権威を迎え 今までの伝統に 新しい技術をとり入れ さらに 自信のあるものが出来ました 外国でも これこそ「世界最高の品質」との折紙をつけられたビールです

第二回 アサヒビール・コンサート
六月五日（水）后六時半（雨天の場合六日）日比谷公園大音楽堂 七〇円 都内プレイガイド前売中
指揮 上田仁 演奏 東京交響楽団 独奏 ヴァイオリン 小林武史 ピアノ 松浦豊明
チャイコフスキーの夕 悲愴交響曲 ヴァイオリン協奏曲 ピアノ協奏曲第一番「白鳥の湖」より

朝日麦酒株式会社